



2010年9月6日(月)開催

テーマ:「インテリジェンス活動について」

報告者:長谷川和年(研究顧問)

概要

インテリジェンスとは如何なる活動か。その活動は広範な分野にわたる。極秘情報、公開情報、資料などを入手し、これを分析し、国(或いは企業)の政策、戦術に利用し、しばしば、それに対応する公然、或いは非公開な措置、対策を講ずる活動をいう。

- ・ 諜報と訳される場合もあるが、今日では諜報は、インテリジェンスの一部であって、諜報ではインテリジェンスをカバーしきれない。インテリジェンスとは、行動のための情報(Information)との定義があるが、現状では、一番、現実に近い定義付けかもしれない。
- ・ 1983年にソ連による大韓航空機撃墜事件があったが、日本がソ連戦闘機と在シベリア司令部との交信を傍受し、この傍受記録を国連に提出、公表し、当初この事件を関知せずとしていたソ連は、この決定的証拠に接し、大韓航空機撃墜を認めざるをえなくなったが(これはソ連軍部にとり大きな打撃であった。)、これは、情報が、直ちに行動に成功裡に結びついた好例である。
- ・ ヒューミント(ヒューマン・ソース・インテリジェンス)が主要な役割を演じた1950年代の諜報からインテリジェンスは、今日では飛躍的に発展し、現在は、エシェロンが重要な役割を演じている。エシェロンとは、米国が中心となって全世界に張り巡らした通信傍受ネットワークである。(その実態は極秘とされ、外部には不明である。)
- ・ 世界の主要国は、それぞれインテリジェンス機関を有しており、諜報活動を積極的に行っている。
- ・ 日本で活躍したソ連のスパイ、ゾルゲ、また米国の諜報機関 MI6 の幹部でありながら、ソ連のスパイとして活躍したフィルビーなどは、我々の記憶に新しい事例である。
- ・ これらは、発覚した事例であるが、インテリジェンス活動の実態は、関係国が明らかにしていないので、依然として、謎に包まれている。
- ・ 発表され、ないしは外部に漏れたインテリジェンス活動の事例についてはスペースの都合もあるのでここでは触れないこととする。

- ・ インテリジェンスに関する行動は、今日、国際的に広範な分野で行われており、その手法、技術は、エシェロンにみるように、飛躍的に発展している。そして、その対象は、軍事、戦略のみならず、産業、科学技術など含み、広く国際関係をカバーしている。

- ・ 日本はこの分野に関しては、致命的に立ち遅れている気がする。政府は、軍、官、産を包含した、強力で総合的なインテリジェンス組織を早急に設けて対応すべきである。

以 上